

山陽小野田市健康づくり推進協議会議事録

会議の種類	平成30年度第1回山陽小野田市健康づくり推進協議会	
日時	平成30年10月25日(木) 18:00~20:00	
場所	市役所3階 大会議室	
出席者	山口県看護協会小野田支部 赤瀬千恵子 (委員) 山陽小野田市連合女性会 井上幸子 (委員) 山陽小野田市社会福祉協議会 河口拓也 (委員) 小野田医師会 川端章弘 (会長) 市民代表 曾瀬護 (委員) 山口東京理科大学 武田健 (委員) 山陽小野田市自治会連合会 千々松正俊 (委員) 厚狭郡医師会 中根比呂志 (委員) 山陽小野田市食生活改善推進協議会 半矢幸子 (副会長) 小野田歯科医師会 平木雄三郎 (委員) 市民代表 福田順子 (委員) 山口県歯科衛生士会山陽小野田支部 藤本文子 (委員) 山陽小野田市老人クラブ連合会 守田節子 (委員) 山陽小野田市母子保健推進協議会 吉田由美子 (委員) (出席者数 14人)	
欠席者	山口宇部農業協同組合 相本まゆみ (委員) 山陽小野田市小・中学校PTA連合会 川崎雅信 (委員) 山口県栄養士会宇部地域専門部会 菊竹美和 (委員) 山陽小野田薬剤師会 松澤進 (委員) 厚狭歯科医師会 山崎哲朗 (委員) 山陽小野田市ふるさとづくり協議会 山田義隆 (委員) (欠席者数 6人)	
オブザーバー	山口県宇部健康福祉センター	小林聖子

事務局	高いのか。たばこだけでは説明できない要因があるのでは。 縦軸は人数となっている。本市ならではのところでは、産業構造的なものも関係があるのではと予測はしている。ただこれに関しては言い切れるものがないため、肺がんが多いということを課題として今後の取り組みを考えたい。
委員	年齢層別のデータはないのか。
事務局	年齢層の分析はない。全国的にみるとやはり年齢が上がるにつれて肺がん、大腸がんの死亡者は増えている。
委員	糖尿病や高血圧などの疾患が本市では多い傾向にあると書いているが、本市は高齢者の割合も多い。高齢者が多いならばこういった疾患が多いのは当たり前だと思うが。本市がこういった疾患が多いまちと思われてしまわないか。
事務局	他市との比較というよりは、本市の疾患状況として、糖尿病や高血圧が多いという意味で記載している。
委員	23ページの自殺のデータだが、25年から減ってきて、このまま落ちるとしたら29年にあがっているが、何か理由があるのか。
事務局	自殺については、本市の規模では単年度での分析は難しい。そのため5年間を目処として分析している。
	事務局から第5章・第6章の説明 質問なし
委員	(2) 第2次山陽小野田市食育推進計画について 事務局から説明 色々な数値を出してもらったが、これが、県や国と比べて高いのか低いのかを教えていただきたい。
事務局	今回の調査については、県と同様の項目調査は行っていない。食生活の内容を聞き取るような具体的な調査は難しい。意識調査という形になる。国や県とは直接比較できるデータはない。
委員	たとえば野菜ジュースを飲んだ人も含まれるのか。
事務局	野菜ジュースは含まないとはしていないため、回答者各自の判断による。
委員	山陽小野田の特産品には「ねぎ三昧」以外にどんなものがあるのか。また特別な名称等がついているのか。
事務局	南高泊ではトマトやグリーンアスパラ、山陽側にはいちご、他にはぶどう等がある。いちごは名産品として登録しているのは種類ではなく「花の海の完熟いちご」という形になっている。アスパラは「きのう今日アスパラ」トマトであれば、南高泊では「おのだトマト三昧」、山陽側では「寝太郎いも、寝太郎トマト、寝太郎かぼちゃ」等を作られている。
委員	20代に特産品を知らない人が多い。郷土料理にしてもそう。残していきたいものはこの計画に入れるかどうかは別として、伝えていくこと

事務局	<p>が大切。</p> <p>特産品マップを作って、小・中学校に配っている。食育担当者として幼・保・小・中の先生に啓発をして、そこから子どもや保護者に広めてもらっている。農林水産の講座でのリーフレット配布や広報での周知も継続して行っている。</p>
委員	<p>食育の中には食べすぎに関する教育はないのか。</p>
事務局	<p>27ページの家庭における食育の推進で、男性は20代から、女性は40代から肥満が増加する傾向を把握している。朝食欠食を防ぐことにより、吸収しやすい体質を防ぐとか、野菜摂取を十分に行うことで、たんぱく質や脂質の摂りすぎを防ぐ等が含まれている。糖尿病予防教室や各種出前講座等とあわせて啓発を行いたいと考えている。</p>
委員	<p>減塩についてはしっかり書かれているが、糖分会を減らしましょうという記載はない。糖の扱いについて章立てて記載はしないのか。</p>
事務局	<p>糖尿病予防の手段としてどのあたりまで明記するかは持ち帰って検討させていただく。</p>
委員	<p>高血圧には減塩というが、糖尿病についてはバランスの取れた食生活が大切。糖を控えようというのは一般的ではないかもしれない。</p>
事務局	<p>食生活のバランスを伝えていくことを引き続き強化していく。</p>
委員	<p>減塩キャンペーンはよく見かけるが、実際の実施状況はどうか。</p>
事務局	<p>薄味についての意識は以前より向上していると思う。しかしながら、外食産業も発達しており、加工食品の利用が増えている。決して否定するものではないが、加工食品内の塩分量などを具体的に講話の中で紹介していく。</p>
委員	<p>イギリスなどでは、加工食品会社に依頼し、時間をかけて塩分量を少しずつ減らす取組を行っている。やはり、行政と業界が一緒になって取り組まないと減らないと思う。</p>
事務局	<p>環境づくりは大切。飲食店や加工業者と連携しながら、市民の意識向上を図る必要がある。</p>
委員	<p>病院には高血圧の学会、団体、製薬会社が作ったようなパンフレットがある。簡易的な質問表に答えることで点数が出る。高血圧の患者さんに渡したりしている。</p>
事務局	<p>食だけでなく、さまざまな分野で企業との連携は必要と思っている。できるところからになるが意識して計画を立てたいと考えている。</p>
委員	<p>企業もそうだが、子どもへの教育をしっかりやってもらいたい。</p>
事務局	<p>教育部門も意識をもってやっている。連携を取って進めていく。</p>
委員	<p>子どもから啓発して貫うのはいい方法だと思う。意識改革を子どもから親に伝えることで、健康づくりが広がると思う。</p>
委員	<p>給食センターができたが、食育改善に何か効果が出ているか。</p>
事務局	<p>衛生面の不安点が大きかったため、その見直しというところが目的の一つではあった。アレルギー対応や食育の推進については、自校式でも給食センターでも変わらず行っている。</p>

オブザーバー	<p>(3) 第9回SOS健康フェスタについて 事務局から説明 質疑なし</p> <p>(4) その他 特になし</p> <p>オブザーバーから助言</p> <p>健康づくりの分野において市と協力して推進していきたいと思う。 中身についてだが、健康増進計画の30ページに市の健康を取り巻く課題についての認知症があがっているが、その部分の対策が入っていないかなと思う。もちろん生活習慣の予防をすればそれにつながると思うが、気づきとして伝えさせてもらおう。</p> <p>4. その他</p> <p>事務局からのお知らせ</p> <ul style="list-style-type: none">・地域共生フォーラムについて・「歯・口腔の健康づくり推進週間」について・未病フォーラム（案）について <p>福祉部次長あいさつの後、閉会した。</p>
--------	--